

○9番（佐々木昇）

皆様、こんにちは。9番議員、佐々木昇でございます。

本日は、公共交通機関空白地域における移動手段の確保について、お伺いいたします。

現在、我が国では少子高齢化が進展しており、開成町においても高齢者の人口は年々増加しております。平成23年度時点では町民の約5人に1人が高齢者であり、この比率は今後も増加傾向にあります。高齢者の増加に伴い自力で移動するのが困難になる方々がふえ、移動手段が不足すると考えられます。現在、町内の北西部約2.4キロ平方メートルに、平成14年の民間バス会社の撤退により公共のバス系統が運行していない交通不便地域があります。こちらに酒匂川流域バスマップというのがあります。これを見れば一目瞭然なのですが、こちらに居住する岡野、金井島、上延沢の方々からの公共交通に対する要望があります。

また、その他の地域からも、町内病院の行き帰り、銀行や買い物、役場やパークゴルフ場に行き来する足があればありがたいという声も耳にいたします。住民、特に高齢者の方々は、便利な広域巡回型の交通手段の導入を強く望まれております。実際に高齢者の単身世帯では、こちらの方は民生委員の方が来られているお宅ではあるのですが、週に一度、親戚の方がまとめて買い物をしてくるというケースもあります。

移動に制約のある高齢者や交通弱者にとって、外出の際の足の確保は重要な問題であります。また、移動手段の確保によって、町民の方々の交流する機会、北部の方が南部地区へ、南部の方が北部地区へ行き来する機会がふえるのではないかと考えております。早急に利便性の高い公共交通システムが必要と考えますが、町の施策と対応についてお伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、佐々木議員のご質問にお答えいたします。

佐々木議員ご指摘のとおり、開成町の高齢者人口は年々増加しており、平成23年度では高齢化率が20.6%になっております。全国と比較すると2.7ポイント低い状況ではありますが、今後は高齢者人口、高齢化率ともに増加していくものと予測はされております。そのような状況の中で、今後、高齢者や障害者、交通弱者などの交通手段を確保することは、極めて重要な課題であると認識はしております。

開成町の交通網は、東西方向のバス路線はあります。南北方向がありません。先ほど言われましたように、岡野、金井島地域の話をされましたけれども、パレットでも同じです。小田急はありますけれども、町内において役場や瀬戸屋敷に行く手段が足りないという話は聞いております。過去において栢山駅と山北駅を結ぶ路線

がありましたが、利用者の減少により平成14年1月に廃止されました。また、昨年12月には新松田駅から足柄大橋を経由し和田河原駅までを結ぶ路線も廃止をされてしまいました。既存のバス路線が廃止されることは、地域住民にとって大きな問題であります。

開成町では、小田原市、南足柄市、足柄上郡5町で構成する酒匂川流域公共交通活性化検討会に参画をし、地域公共交通を活性化し支えていくための取り組みを今、進めているところであります。この検討会では、公共交通利用の啓発用冊子、バスマップの作成や住民アンケート、交通事業者への聞き取りなどを行っておりますが、昨年度は小田原市と大井町で住民へのアンケート調査を実施いたしました。今年度は、開成町においても同様のアンケート調査を行いたいと考えております。

一方、開成町の公共交通については、総合計画の町民ワークショップから開成駅発着のバス回数の増加やコミュニティバスの運行が提案されているほか、昨年度、岡野自治会からも同様の要望をいただいております。他の市・町ではコミュニティバスやデマンドバスの運行や実証実験が行われておりますが、利用率が伸びない、または採算性の問題など、課題も多くあるというふうに伺っております。平成26年度には酒匂川2号橋が使用開始となる予定であります。これによって地域の交通の流れが大きく変わることが予想されております。バス事業者も2号橋の供用開始による新規路線も考えられるとしていることから、既存のバス路線が大きく再構築されることも考えられます。

いずれにしても、現在の社会経済情勢の中では、町で単独にコミュニティバス等の導入を行うというよりは、地域全体をとらえ公共交通の体系を構築するという視点での検討が必要であると今は考えております。また、時間も要することから、現在策定中の総合計画に公共交通の充実を位置づけ、近隣市・町と連携をとりながら引き続き検討を進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

ただいまの町長答弁で町としても重要な課題だと認識しておられるとのことでしたので、非常に前向きに考えられているのだということを感じました。順次、再質問させていただきます。

開成町として、地域住民の交通施策を考える上で一番留意すべき点はどこであると考えているのか、お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

お答えいたします。

高齢化が今後、進んでいく中で、高齢者あるいは交通弱者と呼ばれる方の足が減

っていくというのは大きな問題ですし、近隣市・町において対応を図っているという事は承知をしております。この件につきましては、平成20年の9月の議会でしたか、他の議員さんからご質問をいただいたところでございます。そのときのご答弁でも、この狭い開成町の町域の中でぐるぐるぐるぐるバスを回すということは施策と効果、費用対効果の面でいかなものかというようなお答えを当時の町長がさせていただいたというふうに認識をしております。そのように町域が狭いこともありまして、バスの減便や廃止ということはございまして、比較的、影響としては大きなものといえますか、余り顕在化するものではなかったというようなことでございます。

そのような状況で本当に地域交通が必要なかどうか、ただいま申し上げた費用対効果や、あるいはバス需要、このようなものを勘案しまして、広く町民の方の意見を聞きながら判断することが重要だというふうに考えてございます。そのための留意点としましては、まず一つには目的があるのではないかとというふうに考えます。いわゆる現在の公共交通の補完であるのか、あるいは福祉目的であるのかということです。運行する上で、そういうような対象と目的を明確化することによって、それによって方法論も、また財源も大きく変わってきます。ですから、その辺を勘案しなければいけないというふうに考えてございます。

また、先行している事例を見る限り、財政負担がかさむこと、これはもう避けられないというふうに考えております。そのため、先ほど申し上げたように目的を明らかにした上で需要量等は確実に把握し、それに伴い、だれがどれぐらいの負担を行うのかというような負担のあり方について十分に議論する必要があるのではないかと。一番留意しなければいけない点というのは、その点にあるのではないかと、そのように考えております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

これまでも町では公共交通に関する施策を進めてきたと思うのですが、第四次総合計画に取り組みられている中で公共交通について、どのような位置づけを持って施策を行ってきたのか、お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

第四次総合計画でございますが、計画の中では、鉄道輸送力の充実、二つ目としてバス交通の充実、いわゆる路線バスの部分でございまして、三つ目として公共交通の利便性の向上、これがコミュニティバスでありますとか新公共交通システム、その研究、最後、四つ目として開成駅の施設の整備・充実を設定いたしました。特に、バス交通の充実では、開成駅への路線バスの増発ですとか、あるいは駅への新規乗り入れの推進、あるいはバス路線や運行本数の増加とともに、町民に対して自動車

ではなくてバス利用をお願いするという、そのような呼びかけをすることとしております。また、交通弱者対策として、先ほど申し上げた広域でのコミュニティバスの運行検討、あるいは新公共交通システムなどの調査・研究を進めるという施策を設け計画に位置づけていると、そういう状況でございました。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

第四次総合計画の中にコミュニティバス、今も言われましたけれども、運行の検討や新公共交通システムなどの広域での調査・研究というのを位置づけていますが、具体的にどのようなことを行われたのか、お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

コミュニティバスあるいは新公共交通システムの研究についてでございますが、先ほど町長答弁にもありましたように、小田原、南足柄、あと上郡5町で研究会を構成して、当初、その中でいろいろ広域のコミュニティ交通等も研究するというつもりでございました。ただ、具体的に研究会の内容でございますが、開成町内あるいは地域内の交通を考えるというよりも、例えば、第一生命の撤退に伴い路線バスが大幅になくなってしまったという問題もございます。あるいは新松田から小田原までの路線バス、これもかなりの減便になってしまったというようなことがございまして、そちらのほうの対応がまず先に立ってしまったということがございました。

したがって、先ほど町長答弁の中で小田原、それから大井でアンケート調査ということがございましたけれども、とりあえず、今、緊急に減便を行っているところの対策が先に立ってしまいましたので、正直申し上げましてコミュニティバスあるいは新公共交通システムの調査・研究については、この計画期間内では進んでいないというのが現状でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

なかなか検討が現実に進まないというお答えがありましたけれども、進まない原因というのは町としてどのように考えているのか、考えがあったらお聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

お答え申し上げます。

原因ということですが、開成町は東西のバス路線は比較的充実をしております。ただ、南北がないというところがちょっとネックだというふうに考えており

ますけれども、また、自家用車の利用による送迎でありますとか、あるいは最寄り駅まで自転車を使われる方もかなり多くございます。そのような状況がありまして、公的資金を投入して新たな交通手段を構築しようというような具体的な動きがなかった、あるいは具体的な要望もいただけてはなかったということがありました。さきにお答えしましたように、町内のみを回るような地域交通が本当に必要なのか、あるいは費用対効果、あるいは需要そのものを勘案しながら判断していかなければいけないというふうに考えてございます。

したがって、今年度、町においてもアンケート調査を全域で行いたいというふうに考えてございますけれども、使われる対象者の把握、財源、あるいは、そもそも本当に利用がされるのか。ほかの地域の例で申し上げますと、かなり突っ込んでアンケート調査を行って日に何人かというようなデータを出されましたけれども、実際に、では実験的に回してみようと思ったならば、その6割、7割にとどまってしまったという事例があったというふうに伺っております。したがって、アンケート調査もかなり事細かに行って、本当に使っていただけるのか、そこら辺の検討を行った上で、最終的には政策的に町長判断で必要があるのかどうか判断をしていかなければいけないのかなと、このように考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

採算性利用率という問題点があるということで、初期投資、経費の軽減を考えまして、コミュニティバスやデマンドバスのほかに、現在、既存しております他町の循環バスの活用や、また企業、病院施設などで従業員の送迎などで使われているバスが日中待機しているのを見かけます、そのようなバスの活用について、何かお考えがありましたらお聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

お答えいたします。

確かに、いろいろな方策はあると思います。例えば、開成駅前から富士のほうへ出ていく企業バス、朝・夕は使われますけれども昼間はほとんどあいていないかというふうに考えております。あるいは、近隣ではございませんが、他県の例では自動車学校のバスに地域の住民の方が相乗りしていただくと、そういうようなところもあるということで、アイデアはいろいろあるのではないかと思います。ただ、開成町の場合は、先ほど来、申し上げているように東西というよりは南北の問題でございますので、一つのアイデアとしては、例えば、今の山北町のエリアを回っているバス、これを開成駅のほうまで行ってくれないかというようなアイデアもあると思います。

そのようなお話も若干受けているところではございますが、例えば、企業とかの

バスでしたらば、企業のそういうような活動を妨げない範囲で行うわけですから、好き勝手に、こちらのほうを回ってくれというわけにはいかないでしょうし、かなり詰めて企業さんの協力を得なければいけないというふうに考えております。あるいは、今、申し上げた山北町のバスを持ってくるという場合には、今、山北のほうの岸のほうからおりてくるという路線も確かに考えられると思います。ただ、応分な負担は当然、町のほうから求められるでありましょうし、それを出すだけの利用が開成町内であるかどうか、それについては、岡野、金井島の方だけの意見ではなくて、応分に全体の税金を使ってということになりますので、町全体、町民全体のご意見を伺った上で判断しなければいけないものと、このように考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

また、私の知っている限りでは近隣の市町村では活用されていないみたいなのですけれども、国の補助金の対象となっています地域内フィーダー系統事業というのがあります。こういったものは、開成町では活用できないのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

国の補助金というお話でございますが、私どもで把握している範囲では、国土交通省のほうで、ただいまお話がありました地域内フィーダー系統ですか、これに伴う補助というのがございます。ただ、これは条件がございまして、一つには、いわゆる過疎地域の特別措置法に伴って、もう指定されているところ、あるいは離島ということがありまして、これは開成町は該当しないということになります。

もう1点が、これは地方運輸局長が、その場所を過疎といいますか対象とするということで指定すると、交通不便地域として指定するというところでございますけれども、一つは、条件として半径1キロ以内にバスの停留所ありますとか鉄道駅、あるいは港や空港が存しないということだそうでございます。したがって、役場の前で言えば、新松田・関本のラインから1キロ北側に上がっていくとなると、確かに、それ以上離れているところはありますけれども、余り指定をしにくいのではないのかなというふうに考えられると。

また、この指定を受けるためには、地域住民あるいは自治体、あるいは交通事業者等を交えて協議会を組織しまして計画を立てなければいけない、その上で認めていただくというような、そういう流れになっているそうでございます。私が知っている範囲で関東運輸局の管内でこの指定を受けているのは8カ所だそうでございます。ですから、かなり厳しい条件なのかなというふうに考えておりますし、そう簡単に補助が入るからというわけにはいかないのかなと、こういうふうに考えております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

先ほど利用率という課題でアンケート調査という話が出ましたけれども、私も自分なりに考えまして、例えば、山北町の共和地区、運営方法は地区単独で行っているということで参考にはならないのですけれども、年会費制などを敷いているということでは、私もアンケート調査の中に年会費制とか回数券の活用などの項目を取り入れることで利用率の目安にもなるのではないかなというのをちょっと考えていたのですけれども、現在、町として問題の解決策や問題の解消のために考えているアイデアが何かあるのでしたら、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

お答えいたします。

ただいま議員がおっしゃられたように、年会費制でありますとか回数券の導入とか、いろいろ策は確かにございます。ただ、一番最初に町長からも答弁がございましたように、そのような制度をつくったとしても、実際に使われる方が一般の町民の方なのか、あるいは福祉対象の方なのかということは、かなり、そこを突っ込んで考えなければいけないというふうに思っています。一般の町民が使われるのだということであれば、そのような前金制でありますとか会費制でありますとか、あるいは回数券をあらかじめ発行して財源を確保するというようなことも考えられますけれども、福祉対象となりますと、そこからも、また減免とか割引とかを考えなければいけないといったことがあります。また、一方で福祉タクシーとかの補助の制度というのが別にありますので、そことの切り分けとかをどうしなければいけないかという問題も出てまいりますので、そうそう簡単な問題ではないのかなというふうに思います。

ちょっとアイデアというわけではございませんけれども、先行の事例を見ましても、成功している事例では、自治体だけではなくて、地域の住民とか、あるいは事業者が一体となって自分たちの交通機関を育てていくという、そういう意識を持っていらっしゃるのではないかというふうに考えています。ですから、とりあえず、そういうのがあればということではなくて、5年先、10年先に続いているようなシステムでなければ意味がないと思いますので、今ある交通資源の活用というのがまず第一になってくると。できれば事業者の方に、もっとバスを回していただくというようなことを考えていただきたい。その次には、やはり広域での連携を模索していきたいというふうに考えておりますので、その上で地域に合った効率的な計画といいますかアイデアといいますか、そういうものを出していかなければいけないのかなと、そのように考えておるところです。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

いろいろな課題を抱えた中で第五次総合計画の中に位置づけるということになっておりますが、ただ単に位置づけるだけで具体的に進まないというようなことにはならないのでしょうか、お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

お答えいたします。

これまで地域の方からの要望自体が余り上がってこなかったということもございまして、意識としては持っておりましたけれども、実際に四次計画の中では検討が進んでいかなかったということは事実でございます。岡野自治会さんのほうから具体的な要望が出されたこともありますので、どのような実現方法が可能か調査とともに、今年度のアンケートの調査の結果を踏まえて方策を考えていきたいというふうに考えてはございます。

町長の答弁にもありますように、酒匂川の2号橋の供用開始、あるいは南部地区の土地区画整理事業、この完成は、かなり大きな転機といいますかターニングポイントになるのではないかとこのように考えてございます。先ほど別の議員さんのお話にもありましたように、開成駅、昭和60年にできまして、かなりたちますが、駅前がまだ寂しいような状況でございますけれども、開成駅が真に町の玄関口となるためには周辺地域も含めた交通機関の再構築というのが必要であるというふうに考えておりますので、この機会をとらえて広域のバス運行などを中心に具体的な検討を進めていきたいと、そのように考えているところです。

○議長（茅沼隆文）

佐々木昇君。

○9番（佐々木昇）

最後に、繰り返しになりますが、単に交通手段の確保というだけでなく、地域住民の方々の交流推進ということも視野に入れていただきまして取り組んでいただきたいと思っております。そして、まずは住民の方々の意見を聞いていただくように早急にアンケート調査を実施していただくことをお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。